



クリスマス

のおはなし



(913カ)

櫻崎 茜
作

「ボクシング・デイ」

12月26日はボクシング・デイ。一日遅れてクリスマスプレゼントを開ける日。すべての人が25日にプレゼントを開けるわけじゃない。事情があって開けられない人もある。「ち」と「き」の発音ができない人が通う「ことばの教室」の佐山先生は、みんなより一日遅れてしまってもいいんだという。でも葉にとって先生と過ごす日々は、毎日が新しいプレゼントを開ける連続だった。



(933モ)

マイケル
モーパール
作

「世界で一番の贈りもの」

がらくた屋の店先でぼくが見つけた古い机。秘密の引き出しにしまわれた手紙には、戦場で起きたおどろくべきクリスマスの奇跡について書かれていた…。手紙に心を打たれたぼくは、宛名から持ち主を探し出し、それがさらに優しいクリスマスの奇跡へとつながって…。

P.R.
ギフ
作

「あたしの赤いクレヨン」

(933キ)

12月の最初の日、先生が言った。「12月はクリスマスのように、ほかの人をシェアにしてあげる月です。クラスの中からひとり、ひみつの友だちをえらんで、いいことをしてあげましょう。」先生に言われて、ジルのひみつの友だちにすることになったエミリー。でもジルなんて太っていて泣き虫で、ちょっとも友だちになんかなりたくないよ！最初は不満だったエミリーだけ…。



O.L.
キアケコ
作

「ニッセのポック」

(949キ)

ニッセはクリスマスが近づくと、みんなの家にやってくる小人のこと。白いひげに赤い帽子をかぶっているけれどサンタみたいでプレゼントをくれるわけじゃない。おかゆとビールをあげるけれど家のこわいものをこっそり直してくれたりするけど、うっかり忘れてきげんを損ねると、とんでもないはずらをしたりする。さて、今年ぼくのおじいちゃんの家でやってみよう。ニッセはポックという名の大変なはずらしく…!?



(943ミ)

A.
シュタイン
ハーフェル
作

「ヘラジカがふってきたよ」

クリスマスのせまってきたある晩、ぼくの家を根をつき破り、なんとヘラジカがふってきたよ。「ミスター・ムース」と名の彼のボスはサンタクロースで、トナカイにかわって試験飛行中、あやまって空からおちてしまったらしい。ケががなおるまでぼくの家にいることになったミスター・ムース。そして、クリスマスの晩。ぼくと彼がこっそりねがっている、クリスマスのねがいばかなうのかな…?

